

次期「徳島教育大綱」骨子（案）

1 次期大綱の策定趣旨

- ・次期大綱には、現大綱策定後、生成 A I の社会への浸透などの社会情勢の変化により、将来予測の困難さが増す中、新たに「2040年代にかけて想定される社会情勢の変化」や「社会の変化を見据えた教育施策の方向性」を記載
- ・加えて、現大綱における基本的な理念の実現に向けて、更に取り組を進めるため、新たに「教育改革」の取組を重点項目として位置付け

2 推進期間

令和9年度から12年度までの4年間

3 基本方針及び「人財」の具体像**（1）基本方針**

個性と国際性に富み、夢と志あふれる「人財」の育成

（2）「人財」の具体像

- ①果敢に挑戦する人財（一部省略）
- ②新たな価値を共創する人財（〃）
- ③地域のために行動する人財（〃）

4 改訂に伴う変更箇所**（1）2040年代にかけて想定される社会情勢の変化【新設】****①人口動態（少子高齢化）**

- ・本県の生産年齢人口が2040年までの20年間で約3割減少

②G X・D X等の進展

- ・2050年カーボンニュートラル（C N）に向けた動きの加速
- ・生成 A I の実装によるD Xの更なる進展

③就業構造の変化

- ・A I ・ロボット等利活用人材を含む専門職や現場・理系人材が不足する可能性

（2）社会の変化を見据えた教育施策の方向性【新設】

- ①学校が地域や地域産業等とつながる「社会の結節点」として、社会情勢の変化を主体的に捉え、実社会で活躍できる人材を育成すること。
- ②国際的な視野で幅広い知識と教養を身に付け、郷土の自然・歴史・文化への愛着と、時代を超えた普遍的な価値に対する理解を育むこと。
- ③学習面や学校生活における支援を必要とする児童生徒を含め、一人一人の個性に寄り添い、誰もが自身の力を伸長できる包摂的で柔軟な学びの環境を提供すること。

(3) 重点項目【変更】

次の6本の柱立てにより、方向性を明確化した各施策を形成

※ 太文字：重点項目、細字：関連する施策

h3>

I 「未来に引き継げる徳島」へ挑戦する教育改革の推進

- ・高校教育改革（地元企業等と連携したイノベーション人材・産業人材の育成、公立高等学校の在り方検討、N-E. X. T. ハイスクール構想等）
- ・義務教育改革（ICTを活用した探究的な学びの全県展開、実社会と連携したキャリア教育の推進、STEAM教育等）
- ・教育DXの推進（ICT利活用による授業改善の横展開、小・中・高等学校を通じた系統的な情報活用能力の向上等）
- ・グローバル人材の育成（徳島県版「トビタテ！留学JAPAN」、海外教育旅行の推進、実践的な英語教育等）など

II 個性を活かし、確かな学びを育む教育の推進

- ・企業・地域・大学等と連携した探究学習の充実〔一部再掲〕
- ・実社会でどう役立つかを実感できるキャリア教育の充実、主権者教育、こどもの意見聴取〔一部再掲〕
- ・確かな学力の育成（主体的・対話的で深い学びの実装等）
- ・科学やテクノロジーに対する興味関心を高める取組の充実（義務教育段階からのSTEAM教育等）
- ・幼児教育の振興・充実など

III 多様性を包摂し、一人一人の可能性が開花する教育の推進

- ・特別支援教育、ポジティブな行動支援
- ・実効性あるいじめ防止対策、教育相談体制の充実、こども・若者自殺防止
- ・不登校への対応、県立学びの多様化学校における不登校支援の市町村への横展開
- ・個性を尊重した教育環境の実現（生徒主体の校則見直し等）など

IV 生涯にわたる主体的な学びを支える教育の推進

- ・ラーケーション等による体験活動の推進
- ・心身の健康の増進、食育の推進、体力向上、食習慣・運動習慣の定着
- ・魅力ある教育環境の整備
- ・子どもの貧困対策、ヤングケアラー支援、就学支援、こどもの居場所づくりなど

V 地域・家庭・学校が連携し、協働する教育の推進

- ・コミュニティ・スクール、地域学校協働活動
- ・GX教育（環境学習）
- ・防災学習、学校の災害対応力の向上
- ・学校における「働き方改革」の更なる推進、教員の安定的な確保・資質向上など

VI 郷土愛を育むとともに、文化・スポーツが躍動する教育の推進

- ・地域の自然・歴史・文化の価値の体感
- ・「あわ文化」の創造・発信
- ・競技力向上、スポーツ安全、部活動の地域展開、生涯スポーツなど